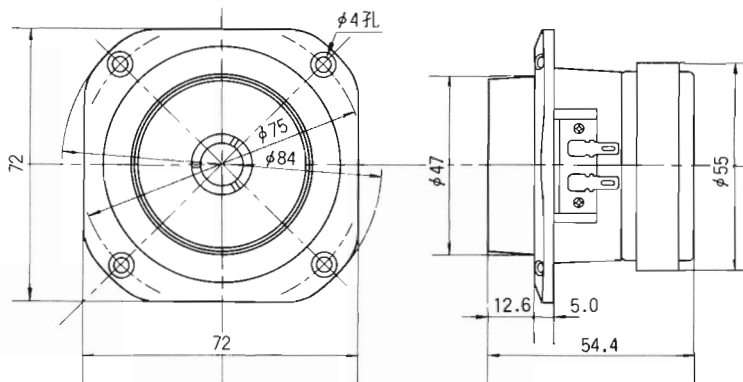


このたびはテクニクススピーカをお求めいただきましてまことにありがとうございました。

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。



付属品

- クッション材……1コ
- 木ネジ……4コ
- ワッシャ……4コ
- スプリング
ワッシャ……4コ
- リセパクル……2コ

単位：mm

φ：直径を示す。

定 格

インピーダンス	8Ω	磁束密度	13,700Gauss
再生周波数帯域	3kHz～25kHz	総磁束	24,000 Maxwell
出力音圧レベル	100dB/w.m	マグネット重量	100g
入力	50W(MAX.)	総重量	350g
推奨クロスオーバー周波数	5kHz以上		

使用上のご注意

1. 過大入力を加えないでください。

ネットワークを通さずに入力を加えることは避けてください。また、アンプが発振していたり、出力が非常に歪んでいる場合には高音域成分が増加し、振動系を破壊することがありますから、そのようなアンプでは駆動しないようにご注意ください。なお、ネットワークを通していても2W以上の連続正弦波や矩形波は絶対に加えないでください。

2. 絶対に分解しないでください

このスピーカは周波数特性直視装置によって特性を測定しながら組み立てています。性能が著しく悪化しますので、スピーカは絶対に分解しないでください。

3. 落下などの大きな衝撃を加えないでください。

ご使用方法

1. クロスオーバー周波数(f_c)の決定

このスピーカの最大入力力はクロスオーバー周波数、及びネットワークの減衰度によって変化します。クロスオーバー周波数を高く選ぶほど、また6dB/oct. より12dB/oct. のネットワークを用いる方が第1表に示すように最大入力力が大きくなります。

クロスオーバー周波数は以上のような最大入力の問題と組み合わせるウーハ（あるいはフルレンジ、スコーカ）の周波数特性および指向性によって決定してください。本機の場合、クロスオーバー周波数は5kHz以上にするをおすすめします。

第1表 クロスオーバー周波数と最大入力との関係 単位W(ワット)

f_c	5kHz	7kHz	10kHz
6dB/oct.	20	30	40
12dB/oct.	50	70	100

2. ネットワークの製作

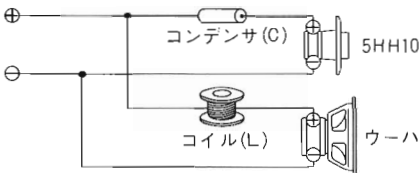
(1) ネットワーク

クロスオーバー周波数が決まりましたら、第2表よりネットワーク定数を求めて第1図のように結線してください。またコンデンサおよびコイルで表の値に近いものがない場合には、第2図のように2つ以上のものを組み合わせてください。なお、ネットワークの減衰度は一般に12dB/oct.の方が予期しないピークやディップを生じる心配が少なく無難です。また、コンデンサにはMPコンデンサ（耐圧50V以上）や無極性電解コンデンサ等の良質のものをご使用ください。

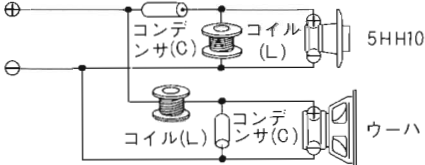
第2表 ネットワーク定数表 (8Ω)

f_c		5kHz	7kHz	10kHz
6dB/oct.	L(mH)	0.24	0.18	0.13
	C(μ F)	4.4	3.0	2.2
12dB/oct.	L(mH)	0.36	0.27	0.18
	C(μ F)	3.0	2.0	1.5

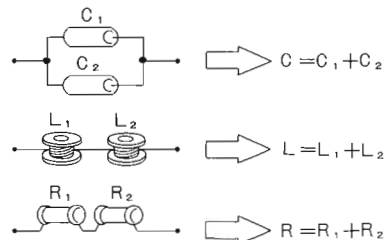
第1図 (a) 6dB/oct. ネットワーク



(b) 12dB/oct. ネットワーク



第2図 2つ以上の組み合わせ例



(2) アッテネータ

マルチウェイスピーカシステムではクロスオーバー周波数だけでなく、各スピーカのレベルを合わせることが大切です。アッテネータは可変式のレベルコントローラや簡単にお使いいただける抵抗式をおすすめします。抵抗式アッテネータはツイータとウーハ（あるいはフルレンジ、スコカ）とのレベル差を周波数特性より求め、その減衰量のアッテネータ定数を第3表より求め、ツイータに第3図のようにつなぎます。また、抵抗には5W以上のインダクタンス成分の少ない皮膜抵抗やソリッド抵抗等をお使いください。

3. キャビネットへの載置及び取付けについて

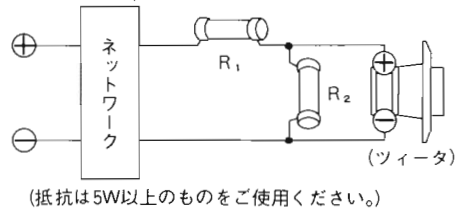
本機をご使用の際は第4図(a)のように9mm程度の台を用いてキャビネット上に載置するか、第4図(b)のようにバツフル板に $\phi 60$ mmの穴をあけ、取付けてください。

第3表 アッテネータ定数表 (8 Ω)

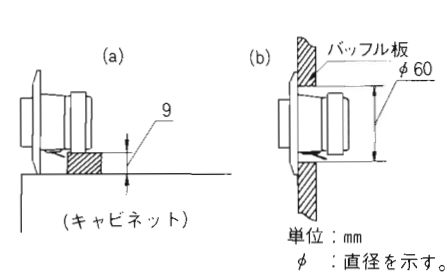
減衰量 (dB)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
$R_1 (\Omega)$	(0.9)	1.8	2.2	2.7	3.3	3.9	(4.4)	4.7	(5.2)	5.6
$R_2 (\Omega)$	(78)	33	18	15	10	8.2	(6.5)	5.6	4.4	3.9

(注) () 内の値はJIS規格にない値ですので2つ以上の抵抗を組み合わせてください。(第2図参照)

第3図 定インピーダンスL型アッテネータ

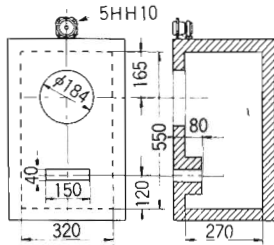


第4図 キャビネットへの載置及び取付け

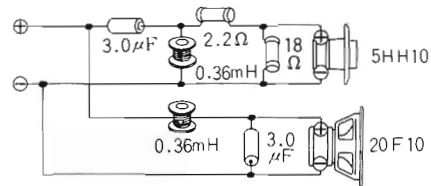


4. 参考製作例(5HH10+EAS-20F10)

4-1 キャビネット (バスレフ型)

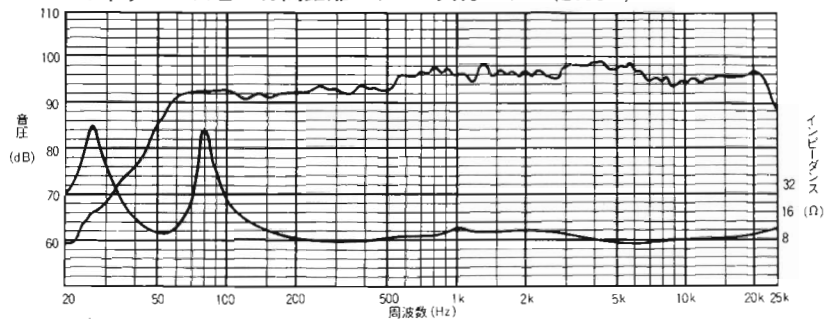


4-2 配線方法(5kHz 12dB/oct. ネットワーク・アッテネータ: 3dB)



4-3 製作例の特性

マイク - スピーカ間距離: 1m 入力: 1W (2.83V)



1. 高能率

極薄軽量のチタン箔をダイヤフラムに採用し、大型マグネットによる磁気回路により、100 dB/w.m の高能率を達成しています。

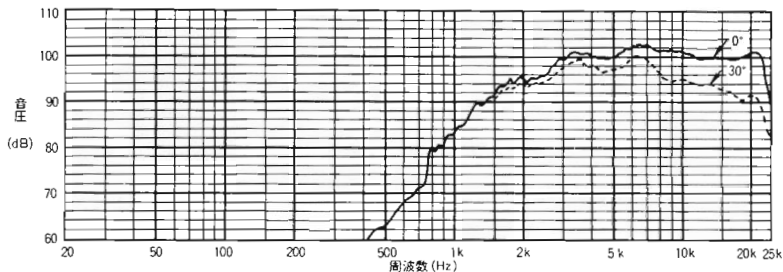
2. 高耐入力

ボイスコイルには耐熱処理を施した銅被覆アルミニウム線を採用し、200℃でもボイスコイルの劣化はなく、最大入力50W(クロスオーバー5kHz 12dB/oct. ネットワーク時)の高耐入力を実現しています。

3. 広帯域再生

精密に設計された、アルミダイカストホーンとアクリルイコライザーによって3kHz から25kHz まで広帯域にわたり、平坦な周波数特性を得ています。

周波数特性



測定条件

マイクロホン：B&K 4133
 入力：1W(2.83V)
 マイク～スピーカ間距離：1m
 バッフル板なし
 0dB=0.0002μdar



松下電器産業株式会社 ステレオ事業部

所在地 〒570 大阪府守口市松下町2
 TEL 大阪 (06) 992-1551

本社 〒571 大阪府門真市大字門真1006